

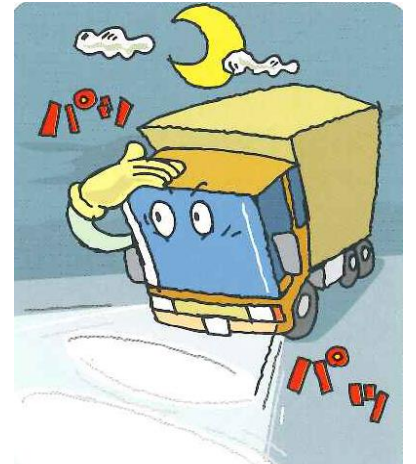
今月の重点管理目標 ― 夜間事故の防止 ―

1

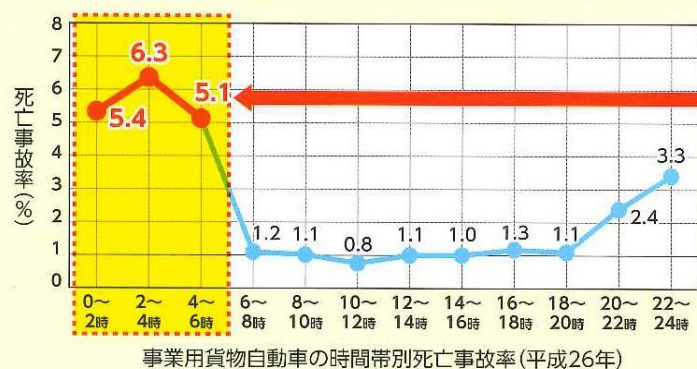
ライトはこまめに切り替え 危険物を早期に見

夜間は極端に周囲が見えにくくなり、わずかにライトの照射範囲内しか見えません。

夜間の見落とし事故を防ぐために、こまめにライトを上向きに切り替えて遠くまで見えるようにして下さい。



●意識レベルが下がってきたと感じたらすぐに休憩を



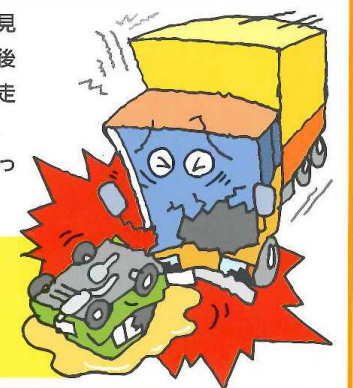
ここに注目!

深夜から
早朝にかけて
死亡事故率が高い

事故事例
に学ぶ

夜間ロービームのため横転車両を見落とし衝突

2007年午前4時ごろ、広島県の中国自動車道で脇見運転のトラックが乗用車と追突し、乗用車が横転した後に、後続の大型トラックがライトを下向きにしたまま走行してきて激突し、乗用車の乗員2名が死亡しました。後続のトラックがライトを上向きにして速度規制を守っていたら、2次衝突は避けられたと思われます。



教訓

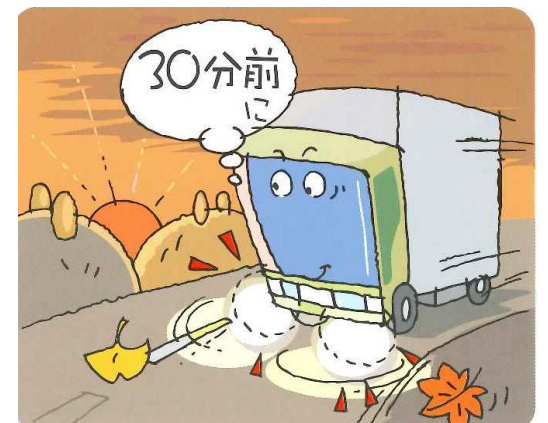
夜間は上向きライトを
基本として、スピードを
控えて走行する

2

早めのライト点灯運動を 展開する

この時期は、「秋の日はつるべ落とし」と言われるぐらい、日が落ちるのが早くなります。

夜間の事故を防止するために、早めのヘッドライト点灯を実施する具体的には、走行している地域の日没時間の30分前にライトを点灯するように心がけよう



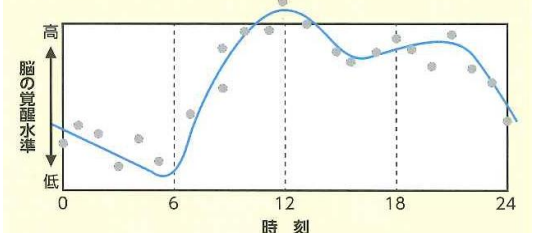
3

一度でも眠りかけたら すぐに休憩を

ほとんどのドライバーは、眠くなっても我慢して運転しがちです。そのため、意識レベルが低下したまま運転して路肩に駐車している車などに追突する事故が起きています。

運転中に、一度でも眠気で意識を失いかけたら、すぐに休憩をとるようにして下さい。

●概日リズムによる脳の覚醒水準の変化



人間には一日の活動のなかで定期的に脳の意識水準が上がったり下がったりする概日リズム(サーカディアンリズム)があり、深夜から早朝にかけて低下するので、居眠り運転に注意する。



事故防止の ヒント

早朝、散歩している 高齢者などに注意

早朝に運転しているとき、歩行者などいないと思って油断していると思わぬ所から散歩している高齢者などが現れることがあります。「早朝だから、誰もいないだろう」と油断していると、事故を起こすこととなります。

